

前田の《ちょっと経営を考えよう》第 382 回

2010 年に中国に抜かれてから世界の名目 GDP ランキングで 3 位になってしまった今の日本、あと数年先の日本がどうなるか、大変心配ですね。またバブル期の日本の経済力は確かなものがありました。今の日本の経済力は 1 位のアメリカや 2 位の中国にも差をつけられ、だんだんと弱体化してきています。

そこでクエスチョンです。「技術力で勝る日本がなぜ事業では負けるのか」

- ① 日本は技術で勝っても、知財権をとっても、国際標準をとっても、事業では負けるのはなぜか。
- ② 日本の産業競争力崩壊間近いのではないか。どうすべきか。

これら 2 つの問題意識への結論は「研究開発戦略」「知財戦略」「事業戦略」の「三位一体」経営にあります。

おわかりになりますか。これからの日本が進むべき方向が！！

そしてもう 1 つ、コロナ不況から経済活動には回復の兆しが見え始めています。これから新しい競争地図が現れます。この嵐を縮小均衡で乗り切ろうと考えている企業は、いかに業界大手であろうと、おそらく敗者となるでしょう。大胆な改革と賢明な投資を推し進める企業が成功するでしょう。要するにコロナ前と同じことをやっているのはダメということですね。

いろいろ勉強し、話し合いで勝ち抜きましょう。

(参考文献 ダイアモンド社『技術力で勝る日本がなぜ事業で負けるのか』妹尾堅一郎著、『不況後の競争はもう始まっている』ポストンコンサルティンググループ著)

前田の《今人生を語る》第 287 回

めざめよ日本人 (209)

《人心掌握の極意「七術」を活用しよう 韓非子の教え》

- ① 自分の目で確かめる一言に騙されないことが肝腎だ、言葉と行動力を照らし合わせてこそ、真実を見ることができる “もっとも重要”
- ② 軽い罪を重く罰す—私信による例外をつくらず過ちは罰することでトップの威厳は明らかになる
- ③ 「賞」は感動の元—功績に対して正確に賞を与えること
- ④ 必ず発言させること—発言はもちろんのこと沈黙にも責任がある
- ⑤ すべてお見通し—トップは現場とつなぐ「耳目」を持たねばならない
- ⑥ 知らないふりをする—相手の誠実さを確かめる
- ⑦ 逆のことを言う—反応を見て真実を確かめる

(太陽企画出版 『人を動かす 7 つの術』林英臣 著) より

～いかがでしょうか、できますか～

皆さんは、マイナンバーカードを持っていらっしゃるでしょうか。昨年はマイナポイントの付与などもあり、急速にマイナンバーカードの普及が進みました。令和 5 年 4 月 30 日時点で、カードの申請状況は人口の 76% を超えたそうです。

マイナンバーカードを使うメリットの一つに、オンラインで行政手続きができるということがあります。今回は、国税庁の e-Tax というシステムを使って電子申告をする際の注意点を説明いたします。

個人の確定申告を、会計事務所・税理士事務所に依頼している方は多いと思います。その際、税理士側では、お客様の ID (利用者識別番号) を代理で取得して申告を行っています。

しかし令和 4 年分の確定申告で、ID (利用者識別番号) が無効になってしまって電子申告ができない方がいらっしゃいました。共通点は、マイナンバーカードを作った後、自分で e-Tax (国税庁の電子申告システム) にログインしたことがあるということです。「新たに利用者識別番号を取得する」という項目を選んでいないのに、いつの間にか新規の ID を取得してしまっている…という事例もありました。

上記は、e-Tax (国税庁の電子申告システム) の実際の画面です。マイナンバーカードを使って初めて e-Tax にログインする際、e-Tax を使うのは初めてだからと ※② を選んでしまいそうですが、こちらを選ぶと新規の ID が作成されてしまう可能性があるようです。新規の ID が作成されると、それまで使用していた ID は無効になってしまいます。

e-Tax にログインする必要がある場合は、次のどちらかの方法を推奨いたします。

- 事前に税理士側に ID (利用者識別番号) を問い合わせ、※① からログインする。
- ※② でログインして新規 ID を取得した場合は、そのことを税理士側に知らせる。

e-Tax を利用すること自体は便利で良いことだと思いますが、案内画面が分かりにくいのでご注意ください。